



歴史的建造物の調査・研究と保存・活用に取り組んでいます。私たちは、長い時間をかけて、建築の文化を育んできました。地域のなかには、こうした建築の文化を物語るたくさんの歴史的建造物が息づいています。研究では、歴史的建造物の調査を行い、人が、どのような姿の建物を、どのようにたててきたか、さらには、建物がたてられた当初から現在に至るまでの変遷を把握します。こうした調査・研究をもとに、歴史的建造物の保存・活用について考え、地域の歴史を活かした地域づくりの提案を行っています。



准教授 梅干野 成央

2002年信州大学工学部卒業、2004年信州大学大学院工学系研究科修了、2007年信州大学大学院総合工学系研究科修了。博士（工学）。2004年信州大学助手、2007年助教を経て、2014年より准教授。専門は日本建築史。

>> 私の学問へのきっかけ

大学院では、信州のある地域をフィールドに、調査研究を進めていました。この地域には、周囲の山に抱かれて社寺や民家などがたち、美しい山村の風景を形づくっていました。経済性を優先した開発によってこうした風景が失われていくなか、私のなかに自ずと冒頭のテーマが生まれました。

>> 研究から広がる未来

建築の未来を考える際、先端的な建築と歴史的な建築の双方を見通すことのできる視点が大切です。歴史的建造物の調査・研究は、その基盤になります。古いものを大切にしながら、新しいものを創造する。こうした建築の未来を構想します。

>> 卒業後の未来像

歴史的建造物の保存・活用に関わる設計者や技術者、また、地域の歴史や文化財を活かした地域づくりの担い手など、幅広い可能性があります。この中には学芸員等の行政職員も含まれます。



歴史的建造物の調査の記録（野帳）



調査を通じて把握した歴史的建造物の骨組みの模型を作成し、理解を深める。



擬洋風建築の代表例、旧開智学校校舎（長野県松本市）。松本の大工・立石清重によって明治9年に建てられた。令和元年に国宝に指定された。

共同研究・外部資金獲得実績

- ・日本山岳建築史の構築に向けた日本アルプスの山小屋建築に関する調査研究（科研費：若手研究B / 2009-11年度）
- ・国立公園法の施行を契機とした山岳建築の意匠論とその展開過程に関する研究（科研費：若手研究B / 2013-14年度）
- ・小菅の里及び小菅山の文化的景観に関する調査（飯山市 / 2013-14年度）
- ・神城断層地震で被災した伝統木造建築の記録と保全による山村文化の継承（信大COC事業 / 2015年度）
- ・長野県の近代和風建築に関する総合調査（文化庁 / 2016-17年度）
- ・富士山の山小屋にみる信仰を基盤とした山岳建築の近代化に関する研究（科研費：基盤研究C / 2016-18年度）
- ・須坂市須坂地区における伝統的建造物群保存対策調査（須坂市 / 2018-19年度）
- ・大工棟梁・立石清重の建築資料を用いた擬洋風建築の地方的展開に関する実証研究（科研費：基盤研究C / 2020-23年度）
- ・長野県の近現代建造物に関する緊急重点調査（文化庁 / 2022-23年度）
- ・立石清重関係資料を用いた地方における「大工」の近代化と建築活動の実態解明（科研費：基盤研究C / 2023-28年度）



研究シーズ

- 日本建築史研究
 - ・民家：建築の地域性
 - ・近世社寺建築：大工の地方的展開
 - ・擬洋風建築：大工の近代化
 - ・山岳建築：近代登山と山小屋の建築史
- 文化財の保護に関わる取り組み
 - ・文化財の保存に向けた調査：有形文化財 / 伝統的建造物群 / 文化的景観
 - ・保存活用計画等の策定
- 既存建築を活用した建築の提案（新旧の融合）



土蔵造の町家が立ち並ぶ、須坂（長野県須坂市）の歴史的町並み。令和6年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。